

「新しい時代に向けて」

ルカによる福音書 24章 44節～53節

説教 本庄侑子 牧師

イエス・キリストは復活後、40日にわたって500人以上の人たちの前に現れました。そして、弟子たちが見ている前で天に昇られました。

復活の主と出会ってからというもの、弟子たちは喜びに満たされていきました。しかし、主は天に上げられ、再び目の前からいなくなってしまうました。しかし、彼らはもう悲しみにくれないことはありませんでした。むしろ、非常に喜びました。エルサレムに帰って、礼拝せずにはいられなくなりました。

十字架の死によって、目の前からいなくなってしまう時とはもう違うのです。主イエスが罪と死の力を打ち破って復活されたから、この世界も、自分も、すっかり変わってしまった。この世界を覆っているのは憎しみでも争いでもない。私たちのために命を注ぎ出してくださったキリストの愛と赦しだ。私の人生を支配しているのは私の失敗でも人の悪意でもない。神の愛と祝福なのだ。そう知ってしまったのです。

私に出会い、復活の命へと立ち直らせてくださったお方が、ただ自分の前におられるだけではなく、天に昇り、神の右に座してくださいました。私の救い主であるだけでなく、世界の救い主であることを明らかにしてくださったのです。そして今も、終わりの日に至るまで、全てのものの上においてくださるのです。キリストの昇天は、そのしるしに他なりませんでした。

主イエスは手を上げて「祝福しておられるうちに」(51節)天に上げられました。手を最後まで下ろされなかった。弟子たちは、そのお姿を忘れることはなかったでしょう。特に闇の力に引きずられそうになった時、肉眼で見た最後の主のお姿が彼らを支えたことでしょう。苦難と死を味わわれた主が、赦しと祝福の手を下ろされない。絶対に下ろされない。この世界は呪いや憎しみではない、十字架についてくださった主の赦しと愛、祝福こそが覆っているんだ、と。

しかし、話はそれで終わりません。主は天に昇られる前、弟子たちの心を開いて、聖書を説き明かされました。「キリストは苦しみを受けて、3日目に死人の中からよみがえる。そして、その名によって罪のゆるしを得させる悔改めが、エルサレムからはじまって、もろもろの国民に宣べ伝えられる。」(46～47節)

キリストは確かに苦しみを受けられ、3日目

に死から復活されました。世の罪の贖いは完全に成し遂げられ、祝福は宣言されました。しかしまだここまででした。その祝福の宣言が、もろもろの国民に宣べ伝えられるという出来事を見ていませんでした。これからだったからです。

弟子たちの耳に思いがけない言葉が聞こえてきました。これを宣べ伝えるのはあなた方だ、と。主が天に昇られる直前、弟子たちの心を開いて聖書を悟らせたのは、彼らを指差すためでした。主が弟子たちに聞かせた恵みの言葉を、今度は弟子たちが隣人に語るようになる。主は、そんな新しい時代を見据えておられました。

私たちがなお、この地上に生かされているということ。それは神が私たち一人一人を通して出会おうとされている人々がいるからです。たとえ遣わされた先が病の床であっても、そこで生かされている限り、そこに赦しの言葉、祝福の言葉、愛の言葉を待っている人がいるのです。

隣人に祝福の言葉を告げる。それは容易いことではないでしょう。身近な一人だからこそ祝福の言葉よりも傷つける言葉を語るに早いのが私たちです。しかし、主は言われました。「見よ、わたしの父が約束されたものを、あなたがたに贈る。だから、上から力を授けられるまでは、あなたがたは都にとどまっていなさい」(49節)。

天に上げられたキリストが、天からの力、聖霊を注いでくださる。弟子たちは聖霊に満たされ、あのキリストの心と一つにされるのです。それが父なる神の約束でした。

彼らは喜びました。この私が、隣人に祝福の言葉を語るができる人になる。自分の人生だけでなく、隣人との関係をもやり直すことができる。その力を天からいただけるんだ。それは、自分を救っていただいた時に抱いた以上の喜び、非常な喜びとなりました。彼らは天に向かいました。そして祈って待ったのです。天からの力に覆っていただくのを待ちました。

次週は聖霊降臨祭です。約束の聖霊が彼らに注がれ、教会が誕生したことを記念する聖日です。聖書の言葉は成就しました。聖霊は降りました。彼らは天からの力に覆われて、祝福の言葉を世界中に宣べ伝えて行きました。私たちも確かに、その歴史の中にいるのです。

(記 本庄侑子)